

PHAYAOレポート 2008-14 (～陸の孤島～)

スタディツアー参加者からの報告 (日刊新周南 連載記事から)

藤屋侃二さん(68) 下松市幸ヶ丘 元KRY取締役ラジオ局長

新周南

2009年(平成21年)2月5日(木)

4

雨期、山への道はぬかるみ状態



タイ北部に住む山岳
少数民族モンを訪ねた
昨年九月の旅は、予定

ではチエンマイのホテルに一泊したあとは
①シャンティ山口が

陸の孤島

運営するモンの子どもたちのシャンティ寮に
②電気もない山奥の村でホームステイで三泊。

③モン族が運営するキャンプロッジ三泊。

①と③は予定通りだ

つたが、②の電気も届いてない村でのホーム

ステイは昨年七月から

八月にかけて降った大雨で山奥はまだ道路事

情が悪く、危険なため

中止となり、低地のモ

ン族の村でのホームス

テイに変更された。

正直に言えば電気のない村での生活は日本では絶対に体験できな

いことで、一番楽しみにしていただけに「多

少無理をしても実施し

たらしいのに」と思つたのだ。

しかし③のキャンプ

十五キロばかりの山道

を一時間近くかけてや

つとロッジに到着した

車をかける一因になつて

いる。

山への道は通行不能になることがある。途中の村の車やバイクはどちらもチエーンをつけて

声が聞こえてくる。

タイの雨期は六月から十月。この間は雨で

減さに苦笑した。

山への道がぬかるみ

状態になると山のモン

の村は陸の孤島とな

り、これが貧しさに拍

車をかける一因になつて

いる。

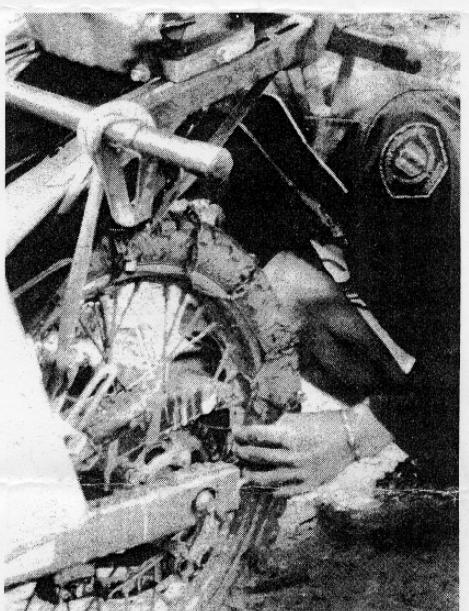
その悪路でも走れる

強力な四輪駆動車は三

百万円。日本の老婦人

局長)

サビエル生誕五百年



からのプレゼントと聞いてびっくりした。

以前は乗用車を使っていた。ある日、ぬか

るみで動けなくなり、車を放棄して泥だらけ

になりながら歩いてロ

ッジにたどり着いた。

ちょうど日本から来て

いた支援者の老婦人が

その姿を見てプレゼン

トを申し出たという。

なかなかできること

ではない。彼女の名前

から「あやみ号」と命名された車は泥だらけ